

北海道英語教育学会

授業実践フォーラム

TBLT の世界 ~その理論と実践~

日 付	2026年1月12日（月・祝）13:00 - 17:10
会 場	北海学園大学豊平キャンパス AV4 教室（教育会館1F）とオンライン（Zoom）ハイブリッド開催
参 加 費	無料
参加申し込み	下記のサイトからお申込みください https://forms.gle/mpJSQoGacTQmZumy9 (1/8 (木) 締切)
12:30-13:00	受付 (Zoom OPEN 12:50)
13:00-13:05	開会式
13:05-14:15	講演「TBLT の基本理念と応用」 白田 悅之 氏 (函館工業高等専門学校 教授)
14:25-17:00	シンポジウム「TBLT の授業を考える—中学校での実践とそのリフレクション—」 コーディネータ 志村 昭暢 (北海道教育大学) 授業者 村田 琴美 (札幌市立丘珠中学校) シンポジスト 沢田 早生 (滝上町立滝上小学校) 楠本 正義 (札幌市立あいの里東中学校) 菅村 朋美 (北海道札幌国際情報高等学校) 白鳥 金吾 (北星学園大学短期大学部) 小野 祥康 (北海道科学大学)
17:00-17:10	閉会式



北海学園大学 AV4 教室（教育会館1F）のアクセス

<https://www.hgu.jp/about/toyohira-campus.html>

札幌市豊平区旭町4丁目1-40

地下鉄東豊線学園前駅 3番出口より徒歩1分



北海道英語教育学会
<http://www.heles-web.com/>

講演「TBLT の基本理念と応用」

函館工業高等専門学校 教授 白田 悅之 氏

1. 概要

英語教育における Task-Based Language Teaching (TBLT) の基本理念と、その実践に向けた指導デザインについて概説する。TBLT の理論的背景、タスクの定義、意味のやりとりを中心に据える指導観などを整理し、これまで取り組んできたタスクベースの指導、タスク開発などの研究成果を基に、授業で活用できるタスクデザインのポイントを紹介する。生成 AI を活用したタスクについても提案する。

2. 講師略歴

北海道教育大学大学院修士課程修了（教育学修士）。専門は英語教育で、特にスピーチング、TBLT、タスク開発、CALL、生成 AI の英語教育への活用に関心を持つ。科研費では、「オンライン TBLT 指導システムの開発」（基盤研究 C・代表）など、TBLT の理論と実践をつなぐ研究を推進。Speaking SIG 初代座長。SIG ではメンバーとスピーチング活動のタスク性判断基準を開発し、教科書のタスク性分析を行ってきた。『BLUE SKY English Course』（啓林館）、『BRIGHTTEST English Communication』（東京書籍）などの教科書の編集や制作に携わる。



シンポジウム「TBLT の授業を考える—中学校での実践とそのリフレクション—」

1. 企画の趣旨

近年、英語教育においては、Task-Based Language Teaching (TBLT) の理論に基づく授業実践が注目されている。一方で、特に公立中学校の教室において、TBLT がどのように具体的に実践され、どのような学習活動や相互作用が生じているのかについては、十分に共有されているとは言い難い。

本シンポジウムでは、中学校における TBLT の授業実践を取り上げ、その授業を題材として、小学校・中学校・高等学校・大学という異なる校種の立場からリフレクションを行う。校種の異なる教員が多角的に授業を分析・協議することを通して、TBLT 授業の特徴や可能性を明らかにするとともに、小中高大の連携による授業改善の在り方について検討することを目的とする。

2. 扱う授業の実践概要

本シンポジウムでは、以下の授業実践を題材に協議を行う。

参加者は事前に授業者が同じ指導案による授業を大学生対象に行った模擬授業の動画の視聴が可能。

項目	内容
実施校	札幌市立丘珠中学校
授業者	村田 琴美
対象	第 1 学年
実施時期	2025 年 3 月
単元・題材	過去の出来事や経験について英語で説明する（教科書単元の集大成）
タスク名	「Buffet Task (バイキングタスク)」
言語材料	be 動詞の過去形 (was / were)、数量表現 (a lot of / many / some 等)